

町田市議会議員 **3期連続トップ当選**

吉田つとむ

若者育成の街◆取材・記事作成・総合編集



ホームページ ブログ
最新記事をそれぞれに掲載しています



インターン生と研修中

インターン体験記②松村エミリ

初めての訪問先は、町田市民ホールを等の事業運営を行っている一般社団法人町田市文化・国際交流財団の宗田様にお話を伺いに行きました。コロナウイルスによって、ホールを利用されている団体や企画等の中止が相次いでいることによる財団の影響の実情を知ることが出来ました。財団の立場上、解決の糸口が見いだせない問題や通常時とは大きく異なる対策を取らなければいけない現状が浮きぼりになっていました。また、町田市内に発症者が出た報により、個人レベルにおいても危機意識を持つ必要性があるとの再認識をいたしました。ホールの閑散とした状況を見て、このコロナウイルスの終息の目処が立たない限り、どの事業も安心して実行できないことを痛感し、早く終息することを願うばかりと力ない結論にしか至らないことに無力さを感じました。



この間、マスク着用で研修・訪問

私事ではありますが、幼いころから行っている書道の活動で、度々財団の事業に触れる機会があったので、このようにお話しできる機会が出来て改めて大変うれしく思っています。

す。財団の事業の一つにラグビーワールドカップ 2019(TM) ナミビア代表チームとの交流イベントがありました。日本文化体験の場面で、書道がおもてなしの一部分となっている様子を見て、書道を日本文化として誇る思いがより一層強くなったものです。

松村エミリ 高校新3年生(第45期生)

インターン体験記③-1 松村エミリ

2019年3月に設立された町田市地域活動サポートオフィスにお話を伺いに行きました。設立の経緯のお話から、現状の考察が深く行われており、このオフィスの目指す在り方の明確性を感じました。元来は市民協働推進課の中の一部の役割をフューチャーしたオフィスですが、このオフィス形態だからこそ一つの団体と長期的に向き合えるという利点があることを知りました。また、終始“つながり”という言葉数が多かったのですが、協働のサポーターとして各団体間の仲介を行ったり、情報の媒体として社会を繋げていくといった様々なシーンで“つながり”キーワードが印象的でした。また、これからという未来、市民活動における問題は単一的な原因ではなく、多方面に事象の原因が存在するため、解決には多角的な視点で各分野同士の協力“つながり”が必要であると考えました。問題解決に必要な分析から、“つながり”の構築、その後の考察と丁寧に長期的に寄り添っていく手厚い支援体制に先進性を見出しました。



★ 吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、町田市役所のインターンシップ受け入れや中学生の職場体験に先行実施する学生支援です
★ 大学生の目標・希望にそって、議員と一緒に研修・調査するプログラムで社会勉強。
インターン希望の方、関心がある方は、ホームページの掲載要旨をご覧ください。

町田市議会議員 **良識ある保守主義**

吉田つとむ

交通文化都市◆取材・記事作成・総合編集

町田市議会

〒194-8520

東京都町田市

森野2-2-2 2

☎042-724-2171

「保守の会」会派室

自宅 042-795-7361



FAX: 042-795-2726

コロナウイルス感染拡大防止

保守の会は保健所・市民病院の支援を表明!

町田市内でコロナウイルス感染者が出たことは、その事業者が店舗外に一時閉店のお報せを出したことでオープンになったものです。ただし、東京都は陽性患者の行動履歴を含めて、町田市のような個別自治体名を含めて非公開方針を変更しようとはせず、町田市もその指示下にあります。他方で政府は、「人の密集場所、閉鎖空間、近距離の会話を避けよ」、「37.5度の熱が連続5日間での時点で医者に見てもらいなさい」という方針を示していますが、感染者の存在・行動情報がまるで住民に知らされず、ただただ個人的に注意しなさいということでは、ある日突然に爆発的に発生（オーバーシュート）というケースが増すばかりです。私は、感染者の個人情報部分は尊重するにしても、行動履歴を公表して一般の注意を喚起すべきだと思います。

なお、町田市の行政機関は3月中旬以降、備蓄するマスク、消毒薬などを保育園、幼稚園、障がい者施設、医療機関に優先供給しました。製品が不足するものを供給するのは、当然の措置であり、強く支持しています。



研修生も常にマスク着用して参加

石器時代文明が現存する高ヶ坂遺跡

町田市高ヶ坂にある牟場遺跡は、「敷石住居跡」としてその敷石がそのまま現存する珍しい例であり、日本の石器時代に住居が存在したこと最初に明かした遺跡として知られています。大正13年（1925年）に地元の旧南村小学校長山本亀三氏が発見報告し、後に丘陵地における住居跡発見の第一号として国史跡に指定され、先人が優れた石器文明を有していたことを後世への生活遺跡として残してくれたものです。しかも、それを地元の教育者が発見したという意義深い遺跡でもあります。現在は、慎ましやかな建屋で覆われているに過ぎない状況です。

建屋の外から窓越しに撮影しました



町田市は、近隣の芹ヶ谷公園内に工芸美術館を新設建設し、外来の「ボヘミアガラス器」や中国の「鼻煙壺」という町田市とは縁もゆかりも無い工芸品の館を造る計画を推進していますが、世界に類が無いほどの文化性を持っているとは考え難い代物です。

地域の伝統・文化を愛する心があるのであれば、町田市が誇るべき高ヶ坂の石器遺跡文明、及ぶその研究文化の歴史の意義を内外に積極PRすべき施策を普及するのが正しい選択だと判断しています。

★ 政党無所属で市議会は「保守の会」

yoshidaben@gmail.com

URL <https://yoshidaben.jp> 動画 <https://jp.youtube.com/yoshidaben>



メール送信

連絡先 〒194-0011 町田市成瀬が丘1-14-12 サンホワイトE103-13 吉田つとむ（自宅）